

幽居故國

故國ここくに幽居ゆうきよす

沿隄櫻舞菜花香

沿隄えんてい 桜舞さくらまい 菜花香さいかかんばし

追蝶遊蟲年少場

追お蝶ちょう 遊あそ蟲むし 年少ねんしょう場ば

可樂秋顔還故國

可樂たの秋顔しゅうがん 還ここく故國かえに還かえり

裁詩描畫出寒房

裁さい詩し 描え畫えが 出い寒房かんぼうをい出いず

堤防にそって、桜の花が舞い散り、きいろい菜の花が香る
蝶をおいかけたり、虫をつかまえて、おさないころ遊んだ場所がある
老いてからは、樂しむべく、故郷にかえって
小さな部屋からとび出して、詩をつくり、絵を描いて暮らそう

幽居ゆうきよ 世のわずらわしさをさけて静かにくらす。

故國ここく ふるさと。(越前福井)

隄てい つつみ(堤)、大きな土手。

年少場ねんしょうば 若い(おさない) 人がいる場所。

秋顔あきがん 老いた顔つき。老人。

裁詩さいし 詩をつくる。

寒房かんぼう 寒素(質素)な部屋。寒々とした部屋。

